

# 1 教育目標

## (1) 本校の教育目標

校訓「つよい子・つくる子・やさしい子」のもと、ユネスコスクール・青少年赤十字加盟校としての視点に立った「知・徳・体」の調和のとれた人の心と命を大切にすること豊かな児童の育成を図る。

校訓		【めざす児童像】	
つよい子	.....	「いのち」を大切にし、体をきたえ、やりぬく子	(体育)
つくる子	.....	すすんで「学び」、はたらく子	(知育)
やさしい子	.....	人のことを「思い」、人の役にたつ子	(徳育)

### 【めざす学校像】

人と出会い、かかわり、ふれあう活動で心が動く魅力ある学校づくりをめざそう。

### 【めざす教師像】 柔軟で人と対等につながる感性をもつ教師

- ・ 子どもに寄り添い、厳しさの中に優しさのある指導をする教師
- ・ 教育専門職として自らの授業力を高める教師（教師も授業を楽しむ・切磋琢磨）
- ・ 失敗を恐れず小さな実践を積み重ねる教師（「トラブルは恥」意識を捨てる）
- ・ 社会の常識は学校の常識として自らの行動を示す教師

- 子どもの成長の積み上げを図り「切れ目なく線につながる」ような教育活動を展開しよう
- 危機管理能力・地域連携力・マネジメント・人材育成力に目を向けよう
- 視野を広めよう（リフレッシュの推進・オンオフの切り替え）

## (2) 経営方針

全職員の共通理解と協力体制のもと子どもの情報等の共有を徹底し、教育目標の具現を図る。

ア 管理職は、「勤めたくなる学校」を目指し、「通いたくなる学校、通わせたくなる学校」を推進する責任と覚悟のもとに、柔軟的な学校経営を行う。

イ 職員一人一人の個性と能力(適材適所)を生かして、子どもの良さを伸ばす。

ウ 地域と仲良くし連携を通して地域参画型の学校づくりを推進する。

エ 現職教育を計画的に進め、学校の教育力、教師の指導力に努める。

オ 「また後で対応」を捨て、報告・連絡・相談・確認を確実に行う。

キ 教職員の多忙化解消をめざし、業務改善を図る。

## (3) 本年度の重点努力目標

ア 児童の基本的な生活習慣の育成

- 「挨拶、返事、聞く態度」など良好な人間関係づくりに必要な社会的スキルを身に付けさせる。
- 自分の良さ、他者の良さをがわかり、共に生きる力を身に付けさせる。

イ 児童の学習意欲と学習習慣の育成

- 教室の美化に努め、学習環境と学習規律を整える。
- 授業研究を推進し、子どもの主体的な考えや活動を前面に出し、子ども同士が学びあう授業をつくる。道徳の授業を確実にを行う。
- 特別支援教育についての理解を深め、関わりをもつ。

ウ 児童が主体的に活動するための実践力の育成

- 児童会活動、委員会活動、学級活動、異年齢交流活動、福祉活動や勤労生産・奉仕活動等を通して、ユネスコスクールの理念である「つながり」「関わり」を尊重し、人間性を育み思いやりの心を育成する。
- 青少年赤十字の研究発表校としての研究とまとめに取り組む。

エ 児童理解と心に迫る生徒指導の推進

- 生徒指導において早期発見・ていねいな初期対応・確実な見届けに努め、心に迫る指導を進める。
- 学校が児童にとって自己存在感を感じられる心の「居場所づくり」に努める。

オ 地域参画型の学校づくりと多忙化解消の推進

- おもいきった行事等の精選を図る。
- 専門スタッフ等の配置拡充や地域学習、総合的な学習の時間、クラブ活動等で、地域人材の有効活用を図り教育効果を高める。(伝統芸能等の継承)